

内視鏡健診を受けましょう。



今年も、健診の時期がきました。

当院では、上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)、下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)の、どちらも受けていただくことが可能です。最近では、内視鏡器具・手技の発達もあり、早期のがんであれば、内視鏡による手術で、体の負担も少なく治療・根治することが可能です。早期のがんを発見するためには、内視鏡検査が必須です。内視鏡健診をぜひ受けましょう。

内科・消化器科 中島崇志

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)について

胃カメラでは、胃を中心に、食道や十二指腸などの病気を見つけることができます。

良性のものでは、逆流性食道炎や胃十二指腸潰瘍、ポリープなどを、悪性のもものでは胃がんや食道がんの診断などが可能です。

胃がんは、大腸がんに次いで、日本人が多くかかるがんです。男性はおよそ9人に1人、女性はおよそ19人に1人が、一生のうちに胃がんと診断されています。かつて日本人のがんによる死亡数の第1位は胃がんでしたが、先に書いたとおり、最近では診断・治療技術の発達により、男性では肺がんについて第2位に、女性では第4位に下がってきています。それでも、男性では年間およそ2万8千人、女性は年間1万5千人前後の方が胃がんによって亡くなっています。胃がんはステージ1では5年生存率が90%を超える一方、ステージ4では10%をきります。ですので、いかに早い段階でがんを見つけるかが大事と言えます。

2017年の罹患数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	前立腺	胃	大腸	肺	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮
総数	大腸	胃	肺	乳房	前立腺

2019年の死亡数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
総数	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

当院では、細径の内視鏡を用いて検査を行います。希望に応じて、鼻からでも口からでも検査を行うことができます。また、家族の方の送迎や公共の交通機関を利用していただけるとのことであれば、鎮静剤の使用も可能です。みなさんに苦痛の少ない検査を受けていただけるように、内視鏡専門医の医師をはじめ、担当スタッフ全員で丁寧な検査を行います。安心して検査を受けていただければと思います。分からないことや、聞きたいことがあれば、まずは遠慮なく相談に来ていただければと思います。

胃カメラ、胃がん検診は予約が必要ですが、ご希望の日時でのご予約が取りやすいです。



下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)について



大腸カメラでは、おもに大腸ポリープ・大腸がんの診断が可能です。

大腸がんは、食生活の欧米化などに伴い、年々かかる人数が増加しており、現在では男女をあわせると、日本人が最も多くかかるがんです。男性のおよそ11人に1人、女性のおよそ13人に1人が、一生のうちに大腸がんと診断されています。大腸がんは女性のがんによる死亡数の第1位、男性は第3位となっています。検査を受ける敷居の高さが一因とも考えられます。

大腸がん検診の第一は便潜血検査になります。その検査で異常を認めた場合には、内視鏡検査を行うことが望ましいです。まずは便潜血検査を受けていただき、必要な方はぜひ大腸カメラを受けましょう。また、血便や便秘、便が細いなどの症状がある方も、内視鏡検査を受けるべきです。

大腸カメラでは、ポリープの種類やサイズによっては、その場で治療することも可能です。その際には、基礎疾患や内服薬についての情報が大事になります。また、大腸カメラでも、希望に応じて鎮静剤の使用も可能です。詳しい話は、外来でお話しますので、遠慮なく相談に来てください。

特定健診 実施中です！

ぜひ当院でご自身の健康チェックをしましょう

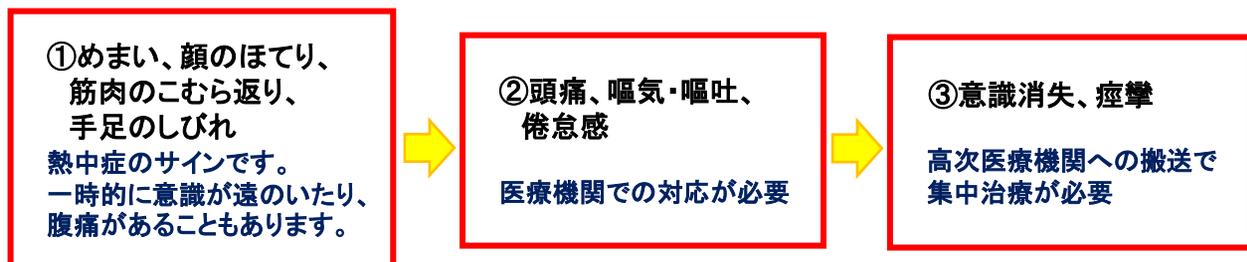
- **小松市はつらつ・長寿健診** 期間：6/20(月)～10/15(土)
診察の合間でも、健診のみでもお気軽にお越しください。予約不要です。
- **小松市胃がん検診** 期間：6/20(月)～10/31(月)
予約制。比較的予約取りやすいです。詳しくはお問い合わせください。
- **小松市大腸がん検診** 期間：6/20(月)～10/31(月)
(容器の受渡しは10/15まで)

さくら通信編 ふれあい講座

「熱中症について」

内科 平川祐希

最高気温が40度を超える酷暑日が気象庁で新たに定義されるなど過ごしにくい日々がまだまだ続いております。そこで気を付ける必要があるのが「熱中症」です。熱中症とは暑い環境で体温の調節が出来なくなった状態で、めまいや吐き気、頭痛などが起こり、最悪の場合は死に至ることもあります。適切な対応をしないと救急搬送が必要となる危険性が高くなることがお分かりでしょうか。



このようなことを防ぎ、症状の悪化させないためにも水分補給、塩分補給が重要となります。汗をかくと水分だけでなくナトリウムやカリウムなど体内の様々なエネルギーが消費されるため、ただ水を飲むだけでは適切ではなく、汗をかいて失われた水分とエネルギーを補給できる飲み物を摂取する必要があります。自身に口渇感がなくとも定期的な飲水や休憩を意識するだけで予防できますので自分や他者の異変に気を配りながら充実した生活を過ごしましょう。

